

令和6年度 朝来市立（ 竹田小 ）学校 学校評価

学校教育目標

未来を切り拓く、
心豊かでたくましく生きる児童の育成
～コミュニティスクールとして～

総合的な学校関係者評価

・地域密着型を推進しておられ、アットホームであり、非常に親しみやすい。
・カリキュラム優先では、先生方に負担にならないか心配。教員不足を今後どう解決されていくか。
・コミュニティスクールとして地域の資源を活用し、充実した教育内容の1年となった。
・保護者の立場からは我が子の存在もあり日々の授業への協力へは難しい面があるため、地域の方々が快く協力してくださる姿に本当にうれしく感謝しています。これからも学校を中心に地域・家庭で連携をとり、互いに声を挙げられる存在であれば良いなと思います。

自己評価 達成状況（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

	評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	B	・「さくら連絡網」を活用して、迅速に家庭に連絡できている。 ・各学年、毎週の通信の配布により、家庭へは学校の情報の発信ができています。 ・ホームページや学校通信などを通して地域への情報発信を増やしたい。	・保護者との連絡がさくら連絡網の活用によって迅速かつ密になされている。 ・学校通信も地域内回覧されている。地域の人に見ていただけるのは良い。 ・さくら連絡網着信がわかりづらい。 ・このような取り組みが定期的に行われたら良い。
		学校運営協議会活動の充実	B	・学校への人的支援や「竹田での疎開生活から平和を考える会」など、学校運営協議会と連携した取り組みができた。	・市内合同研修会参加や主催講演会開催、スクールボランティア（ミシン実習の呼びかけなど、充実した活動となった。 ・非常に協力的です。
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	B	・全教職員で児童の内面理解に努め、各学級で自己有用感や達成感を高めながら、互いを認め合う学級づくりが推進されている。	・児童会の活動や委員会活動に児童の自主性が芽生えい傾向にある。 ・全児童数がなくなったので、集団生活の充実が見られる。 ・各学年の特色を生かした学級づくりができています。仲間意識がしっかり育まれている。
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	B	・教育相談や毎月の生活アンケート、毎週定例の生活指導委員会等により児童の状況、内面理解を推進できている。	・靴箱点検等、高学年を中心に自分たちの生活を見直し向上する活動を続けていてよい。 ・年齢に応じた指導、個の特性を理解し、よく対応してくださっている。
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	B	・生活指導委員会や校内支援委員会、情報交換会、ケース会議、通級指導員との連携などを通じて、児童一人一人の実態を共有し、対応できている。	・いじめ事案を学校側が把握している時点で対策や解決がしやすい状況である。不意登校についても把握されている点でよい。 ・ヒヤリハットを吸い上げのみにんでホームルーム等で考える時間を。 ・少ないと聞いて安心した。 ・自分や自分たちでいじめ、不登校や問題行動、ネットトラブルに気づいていない。 ・これまでのマニュアルで通用から見直しを考えている中で、次年度からより実際に起こりうる災害に即したものにねばらない。 ・訓練見直し次第ですね。 ・大地震がいつ起こっても不思議ではない状況において、登校中児童を守るのには、先生方の知識に頼る他ない。 ・各地で様々な災害が起こっている中で、実際に起こる可能性がある災害を想定し避難訓練を実施する必要があり、備えすきでもよい。 ・保護者の意見の中で、登下校時のマナーが悪いとの意見が多い。学校の方でも注意してほしいが、見守り隊にも注意喚起していきます。挨拶ができない子が多いとの意見も多いが、我々も積極的に声を出して、挨拶していきたいと思います。 ・児童数の減少により、登下校の規律の乱れが目立つような気がする。1人での下校は避けるよう指導していきたい。
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	C	・実際に様々な災害等が起こった時を想定したマニュアル等に見直し、全職員で共通理解しておく必要がある。	・校内で共通理解をもつてあたられている点で望ましい。 ・しっかり対応してくださっている。
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	B	・特別支援教育コーディネーター4名を中心に、適切な教育活動が推進されている。スクールカウンセラー、通級指導との連携等、個々の児童が感じている困り感に寄り添った教育活動となるよう毎学期の「子どもを語る会」で意見交流を行った。	・インフルエンザ感染はなし。コロナ感染は拡大せず、対策が取られているのでよい。 ・コロナ禍で行えなかった行事等、しっかり対策することで今年度は開催できたことはとても評価できる。学級閉鎖もなかった。 ・感染症の流行が今年度は少なかった。集団生活の場なので、学校で対策を取っていただきありがたい。
		安全安心に過ごすことができる学校づくり	熱中症対策、インフルエンザ等の対策	A	・手洗い場や廊下に手洗い用の石鹸やアルコール消毒を置いており、感染症対策ができています。
あさごドリームアップ事業		特色ある学校づくり	A	・あさごドリームアップ事業の講師、図書ボランティアなど、地域の多くの方が学校を温かく支援してくださっていることに感謝したい。	
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりのUD化推進	B	・授業実施にあたり、事前準備を十分に行うことで、主体的な授業づくりや個に応じた指導を実践することできた。	・指導者が深い理解をもって指導されているので、児童も主体性をもった学びができています。 ・テキスト通りにいくものではありませんね。一番難しい永遠の課題です。 ・休日でも出勤し、授業準備等を行う先生方の姿勢に頭が下がります。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	B	・算数科に焦点を絞り、自分の思いや考えを文章で表現させ、児童の長所・強みに着目し達成感を持たせることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組んだ。	・主要な教科に絞って重点的な授業の改善や指導をされることは、学力向上を目指せてよい。 ・算数に焦点を絞ったという点はとても理解できるし、評価したい。
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	B	・教師が児童と一緒に考え「自分事」として自己の道徳的価値を温める授業作りを意識することができた。	・児童自身が考える力を引き出す指導はよい。 ・個々に応じた教育、押しつけのない教育をしてくださっている。
	情報教育	情報活用能力の育成に向けた指導改善	B	・児童の情報活用能力を高められるよう、教師自身も情報活用能力を高めていく必要がある。 ・タブレットの活用は進んでいるが、様々な情報をどのように扱うかという視点で情報活用能力の育成を考えなければならない。	・教師の情報活用能力UPを目指しておられる点は評価。情報過多時代に正しい情報を選択する力が大切。 ・昔と比べ、タブレットの活用によって授業や学校生活がより良いものになっていったらと思う。
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	B	・人権標語を全校生で取り組んだ。児童向けの人権をテーマにした講話などを聞く機会があってもよいのではないかな。	・校内掲示あり、人権作文の受賞者がいて、人権教育は浸透しているように思う。 ・児童自身が人権を学ぶ機会などがある必要はあるのでは。（「子ども六法」） ・大人にとっても少し難しい印象があるが、子ども達の時からそれに触れることは大事なことでと思う。
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A	・体育や、等の体験など、講師の先生に来ていただき、いろいろな体験活動ができています。	・体験学習の場をたくさんもたれて、充実した1年となりました。 ・竹田地区の環境が良い。 ・田植え、稲刈りなど、生活に欠かせないことへの体験は大事で、それができる環境、協力して下さる方々の存在はありがたい。
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	A	・栄養教諭と連携した食育指導は大きな成果となっている。児童が食を通じて健康づくりを意識する機会を多く持つことができた。	・栄養教諭毎週1回、毎日の食事が自分たちの身体を作っていく大切さを学ぶ機会があつてよい。 ・昔は家庭で自然に身につけていた食育が今は希薄になっている文、学校で補ってくださっている点は評価できる。
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B	・地域の方々との体験活動や社会見学等で、学習の視点が広がりがキャリア教育につながっている。	・中学校では移住者で新しい事業を展開している方の後援を聞く機会、将来のためにお金（経済）ことを学ぶ機会があつてもよいかなと思う。 ・地域柄、若干視野が狭くなってしまうのは否めないが、どの子にもどんな可能性もあることを知ってもらいた。
その他	・「ふるさとに愛着と誇りをもつ子」の育成 ・竹田の「ひと・こと・もの」の活用 ・児童の個人用タブレットの活用の推進		B A B	・ドリームアップ事業やおはなしパレットの活動等、様々な場面で地域の方とふれ合うことが、児童の郷土愛の向上につながっている。 ・正しくタブレットを活用するために、情報モラルの指導をすることやタブレットの扱う際のルールを守らせることが必要である。 ・今年度はより地域の人々とのつながりが深まり、竹田の人的資源が生かされたと思う。 ・竹田っ子であることへの誇り、愛着はとても育まれていると思う。 ・他校に比べてタブレットの活用が少ないように思うが、私はそれぐらいで良いと思う。 ・新世代に竹田出身の方が多く、竹田の魅力をたくさん学んで、また子ども世代もそうなることを願っています。	